



7月22日～8月4日、本校の生徒11名が米国サウスキャロライナ州チャールストン市で研修を行います。滞在中は100年以上の歴史を持つ女子高のAshley Hall校と連携し、アメリカの生徒たちと「女性のグローバルなキャリアデザインに対する課題解決プロジェクト」の共同研究を行います。企業訪問や女性起業家とのセッション等を通して国際的な視野の拡大を目指します。

## 7月22日(月) チャールストンに到着しました



この夏、共に学ぶ仲間たちと

### ■ チャールストン空港から学生寮へ

7月22日、生徒11名と教員1名が成田空港を出発し、チャールストン空港に到着しました。空港にはAshley Hall校の先生やGA(Global Ambassador)の生徒たちが出迎えてくれました。

全員スクールバスに乗り込み、これから皆で2週間一緒に生活する学生寮“インターナショナルハウス(Elizabeth House)”に向かいました。

## ■ 企業訪問レポート

### ■ 企業訪問1【blackbaud / ITソフト開発会社】

お話を伺った方: Mary Beth Westmoreland さん (Chief Technology Officer, 最高技術責任者)

〈経歴〉・大学で数学と物理学を専攻し、その後ソフトウェア工学の道に進む。ソフトウェアエンジニアおよび商品開発に30年以上携わり、他会社で部長をしていたところ声がかかり、2008年にblackbaudに入社。2017年および2019年には技術分野における最も有力な女性トップ50に選ばれる。この会社は教育機関にもソフトウェアを提供しており、学校の教職員や生徒、保護者が使用できる学校のシステムを開発、提供をしている。



〈仕事で大切にしていること〉自分たちが製品を作ることでその製品の先にいる顧客に貢献でき、また社会にも貢献できること。

〈女性としての視点〉女性が企業で活躍する際の問題点として、経営陣のミーティングにおいて、男性と女性が混ざっていると女性の声時々通りにくいことがある。そのようなときも女性の仲間がいればお互いに助け合って意見を上にあげることができるため、大切にすべきものは仲間である。

〈訪問して〉この会社はビジネスだけではなく、NPO団体とも積極的に提携し、慈善活動を行っている。社屋の設計で重要視されているのは社員同士がいつでも自由にコミュニケーションをとることで、様々な大きさの隔離されたミーティングスペースがあちこちにある。また、卓球台・テレビゲーム・アーケードゲームが設置されているgame roomがあり、社員は休憩代わりにいつでも利用できる。食堂では朝食、昼食、夕食が常に提供されており、自由に利用できる。最先端のIT企業のオフィスの快適さは印象的であった。インタビューは授業での事前準備もあり質問は各々することができたが、お話の内容が難しいこともあり、英語力をさらにつける必要性を実感した。





## ■ 企業訪問2【Boeing / 航空機製造会社】

お話を伺った方：Katherine Ringgold さん  
(Final Assembly and Delivery Senior Quality Leader)

〈経歴〉 Katy さんは飛行機に興味を持ち、航空技術者として空軍で働き、その後ボーイング社に転職した。しばらくはビジネスアナリスト、カスタマーサポート部長として働いていたが、昨年納品に関しての品質管理責任者に昇進し、現在に至る。

〈仕事で大切にしていること〉

企業として大事にしている価値は、「誠実、品質、安全、多様性、信頼、社会責任、出資者への貢献」。また、行動として心掛けていることは、「勇敢に情熱をもって挑戦すること、顧客を第一に考えること、チームでお互いを向上させあうこと、スピードをもって事業を行うこと、誠実に行うこと、失敗から学んで高みを目指すこと、最高の結果を出すこと」である。企業理念をふまえて、Katy さん個人として大事にしていることは、社員の安全と顧客への貢献である。また仕事において大切なものは attitude(態度、考え方、姿勢)である。知識や技術は自分で簡単に身につけることもできるが、attitude はすぐに身につけたり変えたりすることができない。したがって今のうちから積極的に学び、様々な価値観を受け入れ、社会で活躍するという attitude を持つておくべきである。

〈女性としての視点〉 3人の子どもがいるが、家庭生活もビジネスも両立できる環境にあり、満足している。

〈訪問して〉 BOEING 社はアメリカにある世界最大の航空宇宙機器開発製造会社である。チャールストン市には航空機のボーイング 787 を組み立てる工場があり、265 エーカーの広大な敷地にたくさんの建物が立っている。私たちが訪れたのはその中でも 787 機を 5 機同時に組み立てることができる最大の工場で、通常の見学者は最上階から下を覗くだけだが、私たちのグループは 1 階まで降りて巨大な機体を見上げながらそれぞれの胴体一つ一つに組み立てられていく様子を間近に見学することができた。この大きな組織においても女性が部門のチーフになっていることは珍しくないとお話を伺った。Katy さんの他にも Communications Specialists の Meaghan Norman さん、ANA から最終検査のために派遣されていたらっしゃる杉山さんから貴重なお話を伺った。



## ■ 企業訪問3 【WCBD テレビ局】

お話を伺った方：Carolyn Murray さん  
(17時、18時、23時のニュースを主に担当するニュースキャスター)

〈経歴〉 ジャーナリストとして 1988 年から活動し続け、他局での勤務を経験したのちに 2003 年に現在の WCBD に移った。30 年以上の活動において州から数々の表彰を受けているほか、2000 年と 2016 年にはアメリカ南東部のエミー賞も受賞している。

〈仕事及び家庭との両立について〉

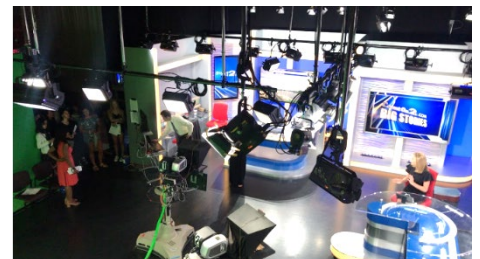
テレビという性質上、クリスマスなどの休暇で休むということとはできないし、自然災害などが起きたら真っ先に動かなければいけない大変な仕事。時には 12 時間以上働かなければいけないこともある仕事だが、ニュースキャスターの仕事が好きだから楽しく続けられている。

家庭とビジネスの両立についてはなかなか上手くはいかないがそれも当然だと思っている。夜がメインの勤務担当なので普段昼の 11 時ごろに出かけて真夜中に帰ってくる。当然娘と夜に会うことはできないし、娘の面倒はいつもベビーシッターにみてもらっていた。何かをしたいと思えば何かは犠牲になるというのは覚悟しておくべきことで、2つとも完全に両立させるというのは現実ではなかなか難しいこと。



女性の力というのは大きいもので、WCBD のテレビ局でもマネジメントのトップは女性だし、新しいキャスターも女性。多くの部署で女性の方が多く活躍している。女子校は女子だけで集まり、協力することができるので非常に良いと思っている。

〈訪問して〉 Carolyn さんのほかにも放送コントロール担当の女性や気象予報士の Rob Fowler さんにもお話を伺った。またこの日の訪問の様子をニュースの中で放映していただいた。



【NBC 系列のローカルテレビ局 WCBD】チャールストンを中心にサウスカロライナ州をカバー。